

実証運行バス、「評価」「概ね評価」が過半数

地域公共交通活性化協議会の吉川区調査結果

上越市地域公共交通活性化協議会はこのほど、昨年度に実施した実証運行バスの調査結果を公表しました。城區、安塚區、吉川區で行われましたが、このうち吉川區の結果について概要をお知らせします。

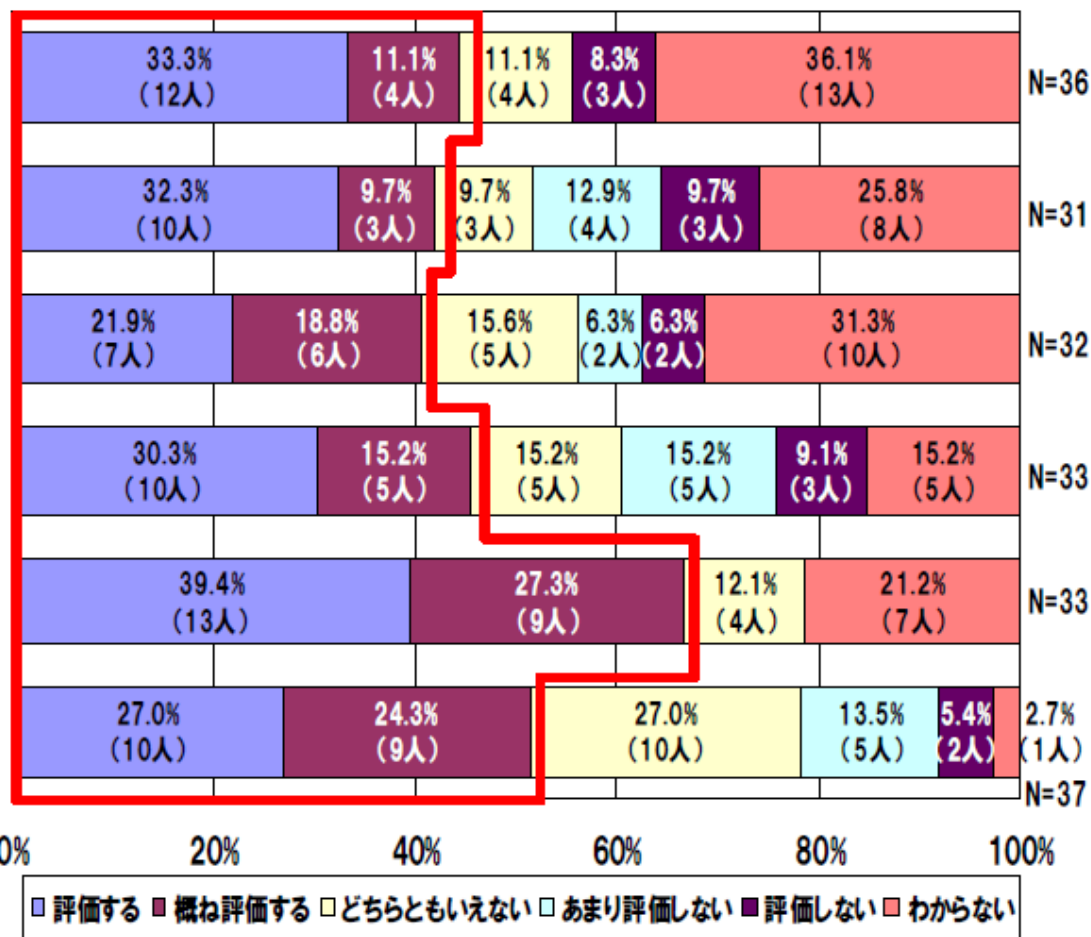


図 2-10 実証運行バスの評価 (バス利用者)

実証運行についての調査は、うち吉川區の結果について概要をお知らせします。バス利用の実態調査では、利用者の70%以上が小・中・高校生であることがわかりました。路線別では山直海線が最も多く、全体の7〜8割を占めています。

注目されたバス利用者のアンケート集計(上の表)では、実証運行バスの全体的な評価として、「評価する」と「概ね評価する」の合計が51%になりました。ただし、「新たなバスルートの運行」「デマンド方式の導入」など個別の項目では、「運行経費の削減」以外はすべて、50%以下の評価となっています。これらの点はしっかりと分析、検討する必要があります。

地域住民アンケート調査結果も利用者アンケートの結果とほぼ同じ傾向です。ただ、「運行ダイヤの見直し」「始発・終発時間の見直し」は利用者アンケートより評価の数値が高く、50%を超えました。

た。地域住民アンケート調査で、現行の実証運行バスを「今後、利用したいと思う」と回答した人は31%にとどまりました。

運行ダイヤの調整を5月に実施

同協議会では、実証運行後の課題整理と見直し方針案が示され、了承されました。方針では、運行ダイヤの調整を5月に実施したいとしています。対象路線は上下浜駅線、くびき駅線以外のすべて。「中学校の下校時出発時間を利用実態に合わせ改善することなどがねらいです。

この他、西部循環線での「スクールバス混乗の導入」の検討を9月を目途に進めることになりました。泉谷・勝穂循環線については、日中の利用が極端に少ないため、デマンドバス導入を検討する方針が示されました。西部循環線とくびき駅線についても一部の区間で非効率な状態であることから、地域の意向を確認しながら運行ルート、運行方法の検討を進めたいとしています。これらも9月を目途に進めています。

「旭橋」と書いて「あさひばし」と読みます。市道松崎熊沢線にあります。川は小黒川。数年前、東頭消防署を過ぎ、その先へと車を進めて「わっ、すごい」と思いました。川のそばのサクラ並木が満開だったからです。安塚というと秋のヤナギバヒマワリも有名ですが、このサクラも見事です。橋長は約30mあります。竣工は1979年(昭和54年)12月です。



シリーズ 上越市内の橋

第34回 旭橋

「旭橋」と書いて「あさひばし」と読みます。市道松崎熊沢線にあります。川は小黒川。数年前、東頭消防署を過ぎ、その先へと車を進めて「わっ、すごい」と思いました。川のそばのサクラ並木が満開だったからです。安塚というと秋のヤナギバヒマワリも有名ですが、このサクラも見事です。橋長は約30mあります。竣工は1979年(昭和54年)12月です。

春よ来い 第一二三回 夕陽のきれいな日に

父が亡くなってちょうど一年。初めて一周忌を迎えて、やはりいつもと違った気持ちになりました。この日の天気は晴れ。少し肌寒かったものの、青空が広がっていました。昨年、突然、病院から携帯電話がかかってきた時も、同じようにいい天気でした。それだけに、電話が鳴った時に胸騒ぎをしたことから始まって、あの日のめまぐるしい一日の様子が鮮やかによみがえってきました。

市役所で行われた二つの会議を終えてからの帰り道。市役所を出て謙信公大橋を渡ると、その先は、昨年、父のなきがらとともに家に向かった時と全く同じコースです。田んぼ、遠くに見える米山や尾神岳の風景などが目に入りましたが、何となく落ち着きません。車内で時計を見ました。一年前、時計を気にしながら、「家の片づけをどうしようか」「親類への連絡は……」などと心配していた、あの日の切ない気分を思い出しました。

わが家に着いて一番先に見たのはベニコブシの木です。昨年、父をわが家に迎えた時、庭にあるベニコブシは満開でした。ベニコブシは父の自慢の花でした。満開になると、家に来た人に、「ほら、見てくんない。おうちのミニコブシ、きれいだろね」とやっています。おそろく、今年も同じ日に満開となるに違いない、そう信じていました。残念ながら、今年はまだ開きませんでした。四月に入ってからからの低温が響いたのでしょうか、まだつぼみの状態です。

午後四時からはお坊さんにお経をあげてもらい、その後、尾神岳の近く、螢場にあるわが家の墓に骨を納めることにしていました。母は、ろうそく、線香、花、新聞紙、水など納骨に必要なものをすべて準備しておいてくれました。私が準備したものはただひとつ、ベニコブシの小枝です。つぼみが膨らみ始めているものを一本だけ、持っていくことにしました。

わが家の墓場に着くと、そこには近くに住んでいる伯母も待っていてくれました。少し耳が遠くなっていることもあって、私が近くに行っても気づかず、せつせと落ち葉を掃いています。うれしかったですね。伯母は墓の周りを少しでもきれいにして自分の弟を迎えようとしていてくれたのです。

わが家の墓場は螢場の東側、釜平というところにあります。少し高台なので、螢場の山々、釜平川の流れ、それと田んぼがよく見えます。墓のある高台を四月に訪ねるのは数十年ぶりでした。近くのハサ場やお墓の周りには紫色のキクザキイチゲがたくさん咲いています。墓場に同行してくださったお坊さんと、母、伯母、それに私の四人を春の妖精のような花たちが迎えてくれた、これもうれしいことでした。

一年間わが家の仏壇においた父の骨はよく乾いていて、墓の中に入れる時はカサカサという音がしました。父が生まれ育ったふるさと螢場に帰ったのは数年ぶりです。私の祖父や祖母たちとの久々の再会を喜び、またいつものように酒造り唄を大きな声でうたっているにちがいません。

お斎はお坊さんと母、私、遅れて参加した妻と遊ランドでささやかにやりました。納骨に手間取り、予定の時間を一時間ほどオーバーして会場に到着したのですが、このおかげで素晴らしい景色と出合うことができました。夕陽です。お坊さんも、母も、私もみんなが夕陽に見とれました。父も大好きだった夕陽はこの日、オレンジ色に輝いて日本海にスツ、スツと沈んでいきました。



吉川小学校と吉川中学校で6日、入学式が行われ、参加してきました。このうち、小学校での入学式の様子をお伝えします。

この日入学したのは赤井亮太さんなど35人。担任の本間先生を先頭に行進して体育館に入場したあと、自分の名前を呼ばれると元気よく「はい」と答えていました。

新入生を迎えてお祝いのことばをのべた中嶋校長は、「お願いが2つあります。ひとつは、自分の命を大切にすること、いまひとつは友だちと仲良く過ごすことです。毎日、元気に挨拶するとたくさんの友だち

ができますよ」とやさしく語りかけました。

在校生も明るく元気に新一年生を迎えました。児童を代表して歓迎のことばをのべたのは加藤樹羅さんです。樹羅さんは、「吉川小学校はとても楽しいところです。運動会や遠足などみんなで楽しめることがたくさんあります。国語や算数など勉強も楽しいです。わからないことや困ったことがあったら私たちに聞いてください」と呼びかけました。

4人そろっての議会報告会実施します

日本共産党議員団では4人そろって参加する議会報告会を12日、13日と開催します。

12日は直江津のレインボーセンター

13日は高田寺町にある福祉交流プラザ

いずれも午後7時からの開会で、約2時間の予定です。3月議会に提出された主な議案と評価、当面する議会の課題などについて市民の皆さんと意見交換したいと考えています。都合をつけて参加してください。

なお、13区についても今後、何か所かで開催していく予定です。(写真は直江津図書館工事現場を視察する議員団)

